

セブン&アイグループの環境宣言

『グリーン チャレンジ GREEN CHALLENGE 2050』

4つのテーマを定め、2050年までに実現を目指します。

株式会社セブン&アイ・ホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：井阪 隆一）は、社会ニーズの変化や環境問題等、様々な社会環境の変化に対応するため、セブン&アイグループの環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』を定め、お客様やお取引様をはじめ全てのステークホルダーの皆様と共に“豊かで持続可能な社会”の実現に向けて取り組んでまいります。また、新たに4つのイノベーションチームを立ち上げ、グループ横断での取り組みを推進いたします。

セブン&アイグループは、これまで様々な社会環境の変化に、価値ある商品やサービスの提供を通じて対応し、豊かで便利なくらしの実現に努めてまいりました。その一方で、様々な環境問題や外部不経済等の社会課題が顕在化し、社会の持続的発展にはその解決が急務となっています。

このような現状認識に基づき、当グループでは、国内で22,000店舗（19年2月末）を超える店舗ネットワークとサプライチェーン全体で、さらなる環境負荷低減を推進し、豊かな地球環境を未来世代に繋いでいくため、グループ全従業員が一丸となって取り組んでまいります。

1. 環境宣言名称：

セブン&アイグループ『GREEN CHALLENGE 2050』



2. 『GREEN CHALLENGE 2050』の内容

目指す姿	具体的な取組	2030年の目標	2050年の目指す姿
脱炭素社会	CO2排出量削減	グループの店舗運営に伴う排出量 30%削減（2013年度比）。	グループの店舗運営に伴う排出量 80%以上削減（2013年度比）。
循環経済社会	プラスチック対策	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する容器は、環境配慮型素材（バイオマス・生分解性・リサイクル素材・紙、等）50%使用。	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する容器は、環境配慮型素材（バイオマス・生分解性・リサイクル素材・紙、等）100%使用。
		プラスチック製レジ袋の使用量ゼロ。使用するレジ袋の素材は、紙等の持続可能な天然素材にすることを旨とする。	—
	食品ロス・食品リサイクル対策	食品廃棄物の発生原単位（売上百万円あたりの発生量）50%削減（2013年度比）。	食品廃棄物の発生原単位（売上百万円あたりの発生量）75%削減（2013年度比）。
		食品廃棄物のリサイクル率 70%。	食品廃棄物のリサイクル率 100%。
自然共生社会	持続可能な調達	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する食品原材料は、持続可能性が担保された材料 50%使用。	オリジナル商品（セブンプレミアムを含む）で使用する食品原材料は、持続可能性が担保された材料 100%使用。

包材にリサイクルペット素材使用



お買い物でエコ参加
この商品の容器はセブン&アイグループが店頭で回収しているペットボトルを含むリサイクルペットフィルムを使用しています。

リサイクルPET・バイオマスPET



カップ本体(ホット)
間伐材を配合した素材を使用

カップふた(ホット)
薄肉化・軽量化
(2017年8月より順次導入中)

カップふた(アイス)
リサイクルPETを配合した素材を使用



セブンカフェにも

「コーヒーかす」の利用

「コーヒーかす」を使用した「消臭除菌剤」を開発し、セブン・イレブン店舗での清掃用として使用

カップ本体(アイス)

リサイクルPETを配合した素材を使用

その他の取り組み

- ・コーヒーフィルター：非木材バイオマス原料を使用
- ・ストロー：原材料にバイオマスPETを配合、サイズ変更、包材薄肉化
- ・マドラー：納品用梱包(段ボール)の軽量化(2017年7月より順次導入)
- ・スティックシュガー：間伐材を配合した素材を包材に使用(2017年7月より試験導入)

東大和市×日本財団×セブン・イレブン・ジャパン×東大和市清掃事業協同組合
東大和市における『ペットボトル回収』を促進！

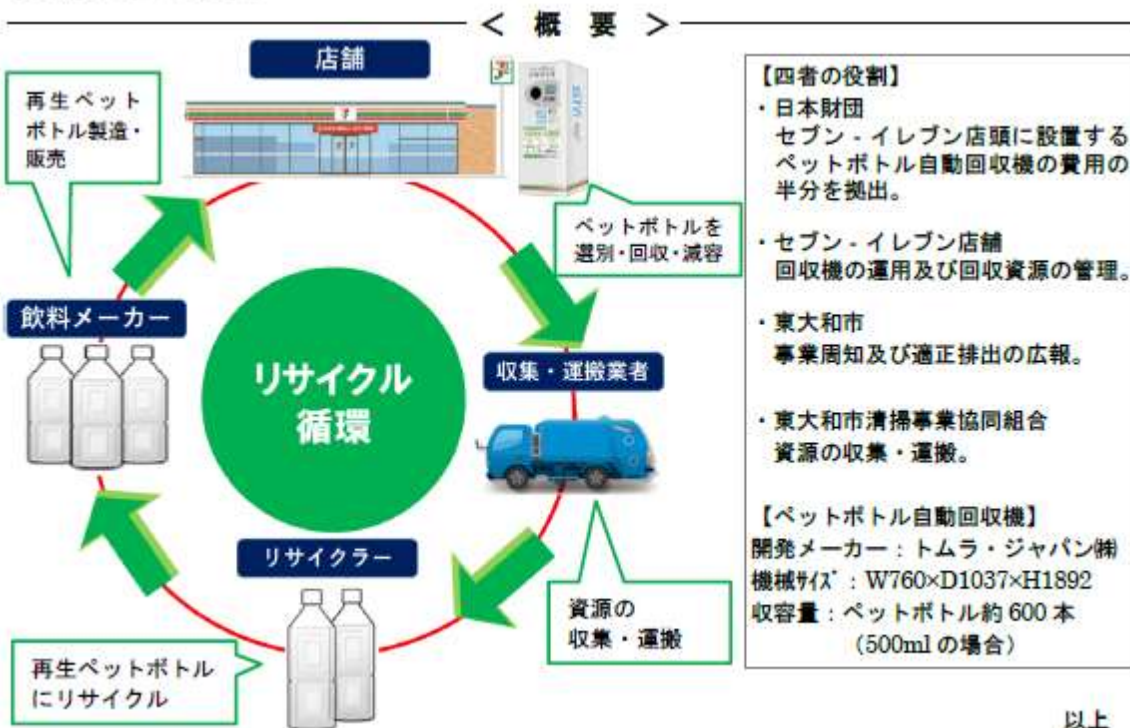
～産官民が連携した新たな回収スキームを実現～

東大和市（市長：尾崎 保夫）と日本財団（東京都港区、会長：笹川 陽平）、株式会社セブン・イレブン・ジャパン（東京都千代田区、代表取締役社長：永松 文彦）、及び東大和市清掃事業協同組合（東京都東大和市、代表理事：加藤 宣行）、は、相互の連携を強化し、“豊かで持続可能な社会”推進の一環として、2019年6月4日（火）より、東大和市内のセブン・イレブン全店（4月末現在：15店舗）に“Bottle to Bottle”のリサイクル促進を目的とした『ペットボトル自動回収機』を順次設置いたします。

セブン・イレブンでは、2015年より『ペットボトル自動回収機』の設置を開始し、現在東京都と埼玉県約300店舗（2019年4月末）で稼働しております。今回、様々なステークホルダーと共に海洋ごみ対策を推進する日本財団とセブン・イレブンが連携し、更に、本取り組みの趣旨に賛同する東大和市及び東大和市清掃事業協同組合の協力のもと、産官民が連携した新たな回収スキームが実現しました。

四者は、地域社会と一体になったサーキュラーエコノミー活動に取り組み、“循環型社会”の実現と海洋ごみの削減を推進してまいります。

なお、今回の取り組みと併せてセブン・イレブンと日本財団は、地域清掃等の海洋ごみ対策にも共同で取り組んでまいります。



【ペットボトル回収のあゆみ】

2015年 12月

機器テスト開始東京都2店

2018年 2月

東京都・埼玉県300店設置

2019年 5月

東京都 東大和市15店設置

2019年 9月

沖縄県4店～順次拡大中

【ペットボトル回収の背景】

- ・海洋プラスチック問題
- ・ポイ捨て対策
- ・輸入規制問題
- ・販売者としての責任
- ・消費者啓蒙
- ・行政連携
- ・ボトルtoボトルの実現
- ・飲料メーカーの協力
- ・リサイクラーの協力
- ・国内における資源循環

“世界初”、店頭で回収したペットボトル 100%使用 完全循環型ペットボトルリサイクルを実現

セブンプレミアム×ー(はじめ) 「ー(はじめ)緑茶 一日一本」

6月10日(月)より、全国のセブン&アイグループ各店で発売

日本コカ・コーラ株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:ホルヘ・ガルドゥニョ)と株式会社セブン&アイ・ホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:井阪 隆一)は、6月10日(月)より、2017年5月の発売以来ご愛顧いただいている共同企画商品「ー(はじめ)緑茶 一日一本」(機能性表示食品)を、セブン&アイグループの店頭で回収したペットボトルをリサイクルした完全循環型ペットボトル(※1)を使用してリニューアルし、全国のセブン・イレブンやイトーヨーカドー、ヨークベニマル、ヨークマート、そごう・西武のセブン&アイグループ約21,400店(2019年5月末)にて順次発売いたします(※2)。

本商品には、お客様のご協力によりセブン&アイグループの店頭で回収したペットボトルを使用した再生PET樹脂を100%用いた、リサイクルペットボトルが使用されています。特定の流通グループの店頭で回収したペットボトルを100%使用したリサイクルペットボトルを原材料として使い、ふたたび同一の流通グループにおいて商品として販売する取り組みは、世界で初めて(※3)となります。

両社は、今後も地球環境に配慮した商品開発とリサイクルスキームの構築を通じ、循環型社会の実現に向けて協力してまいります。



【ボトルtoボトルの実現】

セブン-イレブンの店頭回収機で集めたペットボトルを資源化をして、もう一度ボトルに再生する。

日本コカ・コーラ株式会社様との共同企画、セブン&iオリジナル飲料「はじめ緑茶一日一本500ml」として発売。



500ml
税込127円

次々に飲料メーカー様が
取り組みを発表



「カネカ生分解性ポリマーPHBH（以下PHBH®）」を使用 「PHBH®製セブンカフェ用ストロー」を試験導入

8月6日（火）より高知県内の店舗にて導入開始

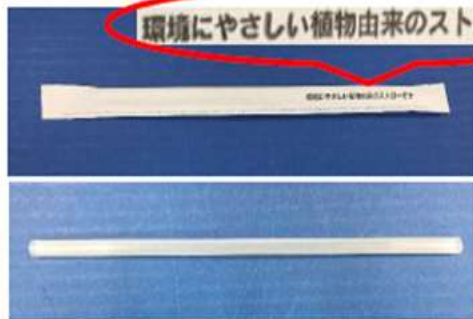
株式会社セブン・イレブン・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：永松文彦）は、8月6日（火）より、高知県内のセブン・イレブン41店舗（2019年7月末現在）において、研究開発型素材メーカーの株式会社カネカ様による「PHBH®」を使用した『セブンカフェ』用のストローを、試験導入いたします。

高知県内では既に環境配慮への取り組みとして、アイスコーヒーに使用するフタを飲み口の付いた仕様に変更することで、プラスチック製ストローの配布量低減を図る試験を行っております。さらに今回、100%植物由来のバイオポリマーとして、幅広い環境下で優れた生分解性を有する「PHBH®」を『セブンカフェ』用のストローの素材として採用することで、さらなる環境負荷の低減につなげてまいります。

セブン&アイグループは、引き続きさまざまな環境配慮素材を使用したカトラリー等の導入とグループへの拡大を視野に取り組んでまいります。

《概要》

- ◆導入開始 : 2019年8月6日（火）～
- ◆対象店舗 : 高知県内のセブン・イレブン41店（2019年7月末現在）
- ◆導入製品 : 『セブンカフェ』用のストロー
- ◆製品特長 : 100%植物由来で生分解性を有する「PHBH®」を採用し、環境負荷の低減につながる製品。



環境にやさしい植物由来のストローです



【ストローの取り組み】

2017年7月

バイオマスPETを配合
サイズ変更、包材薄肉化

2019年1月

紙製ストローテスト一部地区

2019年8月

高知県内41店舗にて、PHBH
テスト導入

【今後の計画】

紙であれPHBHであれ、
あくまでも目指すのは
「発生抑制」

お子様ほか、どうしても必要な
方にはお渡しして差し上げたい

その場合にのみ、紙・PHBH製
で対応（順次エリア拡大予定）